

7月7日早朝から九州電力川内原発正面ゲート前に集まった約120名の人々の「燃料棒の装荷反対」「再稼働阻止」の叫びを全く無視して、その日午後から燃料棒の装荷を始めた。そして8月10日には制御棒を引き抜き、原発の起動を行うと報道されている。いよいよ正念場である。何としても再稼働を阻止すべく、鹿児島では約100の地元団体が構成されている「ストップ再稼働！3.11鹿児島集会実行委員会」が全国に「檄」を飛ばし、現地集会やデモなどへの結集を呼びかけ、様々な阻止行動を展開する。川内久見崎テントもその活動の一角を担っている。

「川内久見崎テント」は、昨年9月末、川内原発2号機から約700メートル、敷地フェンスから約30メートルの久見崎海岸にテントを建て、地元と一体となった活動を目指してきた。そして6月28日「再稼働不同意住民 川内原発正門前抗議集会」とデモを約180名で行った。この集会とデモは、再稼働「不同意」住民が自ら企画し、薩摩川内市民約50名と周辺住民約50名が呼びかけ人となり、自らの意思と力で行動するという形で行われた。また鹿児島来訪中の福島みずほ社民党副党首、そして県議や多くの市議が参加するという華のある集会になった。この10ヶ月テントを訪れた人が中心となって企画したが、初めての経験に戸惑うことも多く、また時間を費やすこともあったが、天候に恵まれ、予想以上の人たちが参加し、反響に大きな手応えを感じる行動となった。ただこれは一里塚に過ぎず、どのように原発再稼働阻止、8月10日に向けた闘いに結びつけうるのか、今問われている。

さて昨年9月のテント開設以来、「ミュージック・フェスタ」開催が課題として語られてきた。そして地元女性やミュージシャンなどの手で具体化が図られ、8月8・9日川内久見崎テントそばで「ウエル亀 ロックフェスティバル」が開かれることになった。久見崎海岸はウミガメの産卵地として知られており、テント開設以来、地元の監視ボランティアに協力して海岸に流れ着く流木やプラスチックゴミを清掃する作業を連日行ってきた。特に高齢のNさんの寒風下、大雨下、烈風下、灼熱下でのこの半年以上にわたる連日の海岸清掃には頭が下がる。例年ウミガメが産卵に上陸する前、5月24日約40名がテントに集い、浜の一斉清掃作業を行った。しかし今年は久見崎海岸での産卵は未だない。原発工事による昼夜の音や光、海水温度が近くの海岸に比べて低い（例えば川内川北の唐浜より1.5度も低いとか）こと、そんなことが原因ではと指摘されている。

いよいよ正念場である。亀ロックやそれに続く連日の再稼働阻止行動に向けて、会場設営や諸準備に忙しい毎日である。テントも15棟になり、まだまだ増える。また地元の人々との緊密な意思疎通と一層の連携が求められている。そして何よりも多くの人々が川内原発現地に集まることが重要である。薩摩川内市内のホテルは予約が難しいと言われているが、寝袋持参なら寝るところは何とか確保したい。「再稼働阻止」の一念を具体的行動に結びつける時である。駆けつけていただきたい。（小川正治：川内久見崎テントにて）